

ちです。

今、決断すべきなのは全原発の閉鎖であり、核燃料サイクル事業の放棄です。その決断をしてはじめて、これまで目をそらしつづけてきた使用済み核燃料や、福島原発事故によって生じた放射性物質の処理・処分に関する議論をはじめることができるのです。既に破たんした原発や核燃料サイクルにしがみついた政府の方針は、ブレーキの壊れた車のアクセルを踏むようなものであり、福島原発事故を起こした反省も、そこから得た教訓を生かそうという姿勢も全く感じられません。必要なのは、再生可能エネルギーと「節電所」(※)を軸とした新しいエネルギー政策の育成に資源を投じ、持続可能な社会や経済を創造することなのです。そして、福島原発事故の被害を受けた人びとに長期的な支援を行うとともに、原発に依存させられた立地自治体の財政や雇用の問題を解決して行かなくてはなりません。

福島原発事故をきっかけに、昨年7月、私たちは緑の党を結成しました。世界90カ国に広がる緑の党は、その誕生以来一貫して反核・反原発を貫いてきました。ドイツでは反核・反原発のデモに参加した数多くの人びとが、緑の党を通じて政治に挑戦し、ついに脱原発を実現したのです。私たちも、福島原発事故で心身の健康や財産に被害を受けた方々の気持ちに寄り添い、二度と原発事故がくり返されないためにも、7月の参議院選挙にチャレンジします。

政党や市民の枠を超え、力を合わせ、私たちの行く手を阻む壁を、ひとつひとつ打ち破って行きましょう。

※節電所 効率的なエネルギー利用を可能とするさまざまな制度・技術の総称。エネルギー需要に対して供給源を拡大するのではなく、需要を無理なく抑えるための制度・技術・市場メカニズムも含めた新しい概念。

◆【声明】 いのちと環境、生活を破壊するTPP参加に反対します

(2013年3月18日 緑の党 運営委員会)

3月15日、自民党の「聖域なき関税撤廃を前提にする限り反対する」との公約を破り、安倍首相はTPP(環太平洋経済連携協定)への交渉参加を表明しました。日本ではオバマ政権が「聖域」を認めたかのように報道されていますが、TPP交渉の枠組みの中では「日米共同声明」は何の保障にもなりません。深刻な打撃を受ける農業団体を始め、消費者団体、労働組合や医師会などから多くの反発の声が上がっています。

TPPは、「モノ」の貿易だけでなく、食の安全、医療、労働規制、金融投資、政府や自治体が発注する事業など、あらゆる分野の「非関税障壁」の包括的な撤廃を目指しています。そして外国企業が環境や安全の規制を受けたことを不満として相手国政府を訴えることのできるISD条項も盛り込まれています。食の安全を守るための残留農薬基準や食品添加物の規制の緩和、「遺伝子組み換え作物」の表示の撤廃などが求められる可能性があります。誰もがいつでも医療を受けられる国民皆保険制度が崩れ、高いおカネを払わないと良い医療を受けられなくなるおそれもあります。

国境を越えてグローバルに活動する巨大な多国籍企業や投資家の利益の下に加盟国政府の法や施策体系が従属させられ、各加盟国の市民の雇用や

健康、地域社会の自立は犠牲にされるのです。TPP参加のメリットとして叫ばれている「輸出品が安くなる」「輸出企業に有利」は、深刻な影響を隠す目くらましで、ごく一部の側面にすぎません。

また、韓米FTAなどで実際に起きているように、日本に安い農産物や生産品を輸出するアジア諸国の農民や労働者の生産物や労働力が安く買いたたかれるという構造にも目を向ける必要があります。大切なのは「国益」をめぐる議論だけではなく、多国籍企業の利益追求から守るべき世界中の市民の人権や民主主義、いのちや暮らしです。

緑の党は、環境や地域を大切に活かし、人が安心して暮らせる参加民主主義と経済と社会を目指しています。新自由主義経済が目指す究極の自由化と過剰な競争による不安社会へとつながるTPP加盟は認められません。TPP交渉の枠組みに参加しているカナダ・ニュージーランド・オーストラリア・アメリカなどの緑の党も、日本の緑の党とともに不公正で不透明なTPP交渉参加に反対しています。安全と公正の原則に立つ開かれた貿易関係を、中国はじめアジア・太平洋の国々の人々とともに築いていきましょう。

報道情報

脱いつか来た道 / 予備選挙報道

緑の党の参院選候補者第2次予備選挙報道のほか、東京新聞では共同代表・高坂勝への取材が大きく掲載されました。また信濃毎日新聞には、社説に緑の党が取り上げられました。

東京新聞 (第3種郵便物認可)



脱いつか来た道

経済成長をしゃにむに目指し、コンクリートの公共事業も復活する。日本の政治は、かつての右肩上がり社会と同じ道に向かおうとしているようだ。でも二〇一〇年代なりの別の幸せもあるのでは。未知の針路を模索する人たちと、考えてみた。

最低限のものだけ置き、店を営む=東京都豊島区池袋で

30代で脱サラ「減速」生活

経済成長っているの？

東京・池袋のまち外れに「繁盛しない」と「が目標の小さなバーがある。一日五人の客があれば良いと、営業は夜の六時間だけ。しかも週に三日は休む。脱サラして店を始めた高坂勝さん(30)の年収は半分近くに落ち込んだが、たつぷりの時間と安らかな毎日を手に入れた。車を減速するようになり、生き方も速度を落としてみる。「ダウンシフト(減速生活)」と呼ばれる生き方が先進国で静かに広がる。行きすぎた経済成長と拡大志向の反動だ。高坂さんも企業戦士だった。一九九四年、バブル崩壊後の就職難の時代に、大手百貨店の内定を勝ち取った。店の顔である一階の婦人雑貨担当を志願し、売りまくった。ハンカチを買いに来た客にエアコンの営業まで行う。同期百四十人中、トップで昇進した。だが、少しずつ心の中がわだかまりが大きくなる。右肩上がりの成長はいつか終わっているのに、会社は

「もっと売れ、もっと利益を」と求め続けられたら、妻と息子の三人家族で暮らすのに十分だ。それ以上は求めない。思い描いたのは、昔からある八百屋や鮮魚店。「このやり方で、人生をやり直してみせる」という反骨心もあった。「使い捨て」時代の反省から、値は張っても上質なオーガニック食材にこだわる。ロコミで少しずつ客が増え、休日を増やした。田畑を借り、念願だった米や大豆作りを始めた。一〇年秋に自らの経験を綴った著書「減速して生きる」を出版した。今の働き方に疑問を持つ人たちが店を訪れたり、メールをくれたりするようになった。その中には、靴修理業を始めた人も、離島で鍼灸師になった人も。減速生活のありようはさまざまだが「皆仕事をやる時間が減った分、社会貢献をしている」。昨年から、地方議員らでつくる「緑の党」の共同代表も務める。社会全体では、小さな変化かもしれない。一輪の花は空から見ても分らないが、花畑になるためには一輪一輪が咲くことが大切。池袋の小さなバーからその種まきが始まっている。(森本智之)



# 世界のみどり

## ドイツ州議会で政権交代／ドイツ支部長来日

世界各地の緑の党のニュースや、「緑の党 Greens Japan」と世界とのつながりを紹介します。

### ■ドイツ、州議会選挙で緑の党・社民党が政権交代を実現

1月20日、ドイツのニーダーザクセン州（人口約800万人）で州議会選挙が行われました。野党である緑の党と社会民主党（SPD）の得票率（計46.3%）が、キリスト教民主同盟（CDU）と自由民主党（FDP）による連立与党の得票率（45.9%）をわずかに上まわり、政権交代が実現しました。

前回の選挙に比べ、緑の党は他の政党からみても5.7ポイントという最も高い伸びを示しており、「緑の党は単なる環境と脱原発だけの政党ではなく、持続可能な経済、財政と税制、有機農業と消費者政策、交通やインフラ政策で多くの有権者の理解を得ている」と評するドイツメディアもあります。

写真には、お祝いに駆けつけたドイツ緑の党共同代表クラウディアさん（左から4番目）、ジェムさん（2番目）、元環境大臣／2013年衆院選担当特別代表のトリティーンさん（6番目）も写っています。

昨年2012年11月にドイツ緑の党大会に招待されたとき、気さくに語りかけてきてくれた仲間が



着実な成果を上げていることを頼もしく思います。（国際局長：郡山昌也）

### <各党の得票率>

[ ] 内は前回2008年からの増減  
(投票率：59.4%)

- ・キリスト教民主同盟（CDU） 36.0% [-6.5ポイント]
- ・社民党（SPD） 32.6% [+2.3ポイント]
- ・自由民主党（FDP） 9.9% [+1.7ポイント]
- ・緑の党 13.7% [+5.7ポイント]
- ・左翼党（Linke） 3.1% [-4ポイント]
- ・諸派 4.7% [+0.8ポイント]

### ■ドイツ緑の党ミュンヘン支部長が来日

2月中旬、ドイツ緑の党ミュンヘン支部長がメンバーと共に来日しました。福島で講演を行い、関東・関西で日本の緑の党Greens Japanメンバーとも交流しました。（下はドイツの新聞）

#### GRÜNE BESUCHEN FUKUSHIMA Strahlung ist noch immer gefährlich hoch

Landkreis - Knapp zwei Jahre nach der Reaktor Katastrophe in Fukushima, sind Antje Wagner und Markus Böhler, die Sprecher der Grünen im Landkreis München, nun zum zweiten Mal in die betroffenen Gebiete in Japan gereist, um sich vor Ort ein Bild von der aktuellen Situation zu machen.

Antje Wagner ist bestürzt darüber, dass die in den Straßen von der Stadt Fukushima aufgestellten Messstationen den Einwohnern eine trügerische Sicherheit vermitteln. Wagner: „Hand um die Messstationen wurde dekontaminiert und die Bleibatterien der Geräte schirmen einen Teil der Radioaktivität ab. Misst man jedoch in fünf Metern Entfernung, ist die Strahlung in der Regel mindestens doppelt so hoch.“ An einem Spielplatz haben die Grünen das getestet, schreiben sie in einer Pressemitteilung. Tatsächlich habe der Geizgäh-

ler in einigen Metern Entfernung den doppelten Wert angezeigt. „Das ist kriminell“, sagen Wagner und Böhler. Sie kritisieren die Zustände aufs Schärfste: „Die japanische Regierung schätzt ihre Bevölkerung, vor allem Kinder und Schwangere, nicht. Anstelle von Reschönigen und Vertuschen braucht die Bevölkerung ein Recht auf Evakuierung.“

Antje Wagner und Markus Böhler trafen auf ihrer Reise über 20 Gesprächspartner von Politikern unterschiedlicher Parteien über Nichtregierungsorganisationen wie Greenpeace und „Friends of the Earth“ bis zu engagierten Bürgern und buddhistischen Priestern. „Die japanische Gesellschaft befindet sich, so die einhellige Aussage unserer Gesprächspartner, in einer tiefen Krise. Es ist fraglich, ob das politische und gesellschaftliche System in der Lage sein wird, die Herausforderungen nach der Katastrophe, insbesondere den Aufbau einer zukunftsfähigen Energieversorgung zu meistern“, sagt de Böhler. Der Fik zwischen Atomwirtschaft und Politik sei sehr dick. Die aktuelle rechtskonservative Regierung kämpfe gegen demokratische Erneuerbare Energien und stecke sich in eine rückwärtsgewandte und nationalstaatliche Politik, um von eigenem Politikversagen abzulenken. „Wir hoffen, dass die Oberhauswahlen im Juli eine neue Partei der Grünen und einen demokratischen, transparenten, bürgernahen Politikantritt bringen. Die deutschen Grünen wollen durch intensiven Austausch einen Beitrag dazu leisten“, betonen die Grünen-Sprecher.



Grüne in Japan: Antje Wagner (v.l.) und Markus Böhler (v.r.) besuchen das Büro der Grünen in Tokio.

### <2月9日 福島県郡山市での講演会>

\* 会員・へびいし郁子さんのブログ「郡山市議会議員へびいし郁子のチャレンジ」の「2月9日脱原発、何が違うの？ ドイツと日本！」を参照  
[http://h-cosmos.blog.ocn.ne.jp/ikuko/2013/02/post\\_7612.html](http://h-cosmos.blog.ocn.ne.jp/ikuko/2013/02/post_7612.html)

### <2月11日 東京での交流> = 左写真

\* 緑の党Facebookを参照  
<http://www.facebook.com/greensjapan>

### <2月13日 京都での交流>

\* 共同代表・長谷川羽衣子Facebookを参照  
<http://www.facebook.com/uiko.hasegawa>

■3.11から2年 アジア太平洋の緑の党が共同記者会見

3月11日、台湾の首都、台北にて福島2周年のアジア太平洋グリーンズネットワーク（APGN）の共同記者会見を開催し、台湾・モンゴル・日本をSkypeでつないで各国からの声明を発表しました。

台湾緑党からは昨年の緑の党結成時に日本に駆けつけてくれたシナン・マヴィヴォさんから核廃棄物最終処分場に反対する声明が発表され、モンゴル緑の党からは 事務局長のボウム・ヤラグチ氏が参加しました。日本からは足立力也（運営委員・国際局）が参加し、下記の声明「福島第一原発事故から2周年私たちは原子力からの即時撤退を求めます」を発表しました。

記者会見の様子が台湾緑党のウェブサイトに掲載されています。

<http://www.greenparty.org.tw/index.php/actions/release/1614-2013-03-11-07-58-22>



<声明>福島第一原発事故から2周年  
私たちは原子力からの即時撤退を求めます

（緑の党Greens Japan運営委員会）

今年の3月11日で、東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故から2年が経ちます。この時にあたって、私たちは日本人として、人類は同じ過ちを二度と繰り返してはならないという意思を他国の皆さんと共有したいと思います。

福島第一原発は未だに危険な状況が続いています。1号機から3号機の原子炉はメルトダウンしたまま手をつけられず、どんな状況かすらまだわかっていません。4号機の使用済み燃料プールにはまだ千五百本を超える核燃料が不安定な状態のまま保管されています。廃炉にかかる年月は40年とも言われており、多くの労働者たちが被爆しながら作業を続けなければなりません。

放射能汚染は東北を中心に広い範囲にわたり、東京でもホットスポットが確認されています。空気や水、大地、食料も汚染された中で、何百万人という人たちが、そのような放射能に汚染された土地で普通の生活を送らされています。その病理学的影響は加速度的に増え続けるでしょう。

にも関わらず、安倍政権は原発の再稼働はおろか新規建設にまで言及しています。現在の日本政府は非常に無責任で私たちには到底理解できず、とても容認できません。

クリーンで安く、再利用ができるエネルギーというウソのもと進められてきた原発は、このようにダークティーで高くつき、取り返しのつかない、私たちの手に負えるものではないことが、この事故により明らかになりました。人類は二度と同じ過ちを犯してはなりません。私たちは今すぐに、この危険なエネルギーから手を引くべきです。

■アジア太平洋グリーンズネットワークが共同声明を発表

福島の大惨事から2年となる3月11日、アジア太平洋グリーンズネットワーク（APGN）は共同声明「フクシマ後の世界 — グリーン経済への出発」を発表しました。

\*APGNのウェブサイトを参照

<http://www.asiapacificgreens.org/news/fukushima-two-years-apgn-statement>

■30周年を迎えたドイツ緑の党

3月6日、ドイツ緑の党は30周年を迎えました。様々な困難と向き合い、経験を重ねてきたドイツから学びつつ、日本の緑の党も7月の参院選で歴史の第一歩を踏み出したいと思えます。

\*ドイツ緑の党ウェブサイト参照

[http://www.gruene-bundestag.de/fraktion/fraktion-aktuell\\_ID\\_4384723/born-to-be-green\\_ID\\_4387626.html](http://www.gruene-bundestag.de/fraktion/fraktion-aktuell_ID_4384723/born-to-be-green_ID_4387626.html)

# みどりの仲間

## さよなら原発、反TPP…各地で集会に参加

各地で活躍する緑の党の仲間の情報を掲載します。今回は、さよなら原発、反TPPの集会に参加した仲間たちの情報です。

3・10原発ゼロ☆大行動 (東京) 首都圏反原発連合主催の大集会。緑の党原発担当の杉原浩司、共同代表のすぐろ奈緒がスピーチを行いました。



さよなら原発3.10関西2万人集会行動 (大阪) 緑の党共同代表の長谷川羽衣子が演説しました。

STOP TPP!! 官邸前アクション 2月5日には緑の党共同代表すぐろ奈緒が、また3月5日には全国協議委員の白川真澄がスピーチを行いました。



### < 今後の行事予定 >

- ◆4/6 (土) @YMCAアジア青少年センター9Fホール (※詳細は1ページ参照) 18:00~ 市民発“緑の党”が国会へチャレンジ! 20:00~ “Greens Power Up” PARTY
- ◆4/13 (土) @龍谷大学響都ホール (JR京都駅八条東口徒歩1分) 13:00~ 希望は“緑” さあ 参議院選挙へ (ドイツなど海外ゲストが来日!)
- ◆5/7 (火) ~5/26 (日) 緑でいこう 原発ゼロ 全国キャラバン [北からルート] 5/7 (火) 14:00~ 北海道旭川市四条買物公園 出発 [南からルート] 5/7 (火) 9:00~ 沖縄県庁前、9:30~鹿児島県庁前 出発 →北・南ルートいずれも 5/26 (日) 東京着予定
- ◆5/26 (日) @杉並区産業商工会館 (JR阿佐ヶ谷駅南口徒歩5分) 18:30~ 参院選キックオフイベント 希望は“緑”! 緑の党を国会へ!! 参加費: 1000円 (会員・サポーター無料、貧困者割引あり)
- ◆5/24 (金) ~31 (金) ドイツ緑の党を招請 (交渉中)

### ★緑の党にご入会ください★



- ①振込または手渡しにて会費の納入をお願いします (振込先はページ下)。\*年額1万円 (サポーター: 3千円) \*サポーターは総会時に議決権がありません。\*会費年度は1月~12月です。その年度毎に会費を納めていただくこととなります。ただ今年は7月の参院選までに多額の資金が必要なため、できれば6月まで早めにお願ひできると助かります。\*減免制度については、事務局にお問い合わせください。
- ②ホームページの入会申し込みフォームに必要な事項をご入力ください。または事務局にお問い合わせください。



〒166-0003  
 杉並区高円寺南4-7-1  
 藤和シティコープ春木屋ビル  
 202  
 TEL 03-6454-6068  
 FAX 03-3318-6063  
 E-MAIL greens@greens.gr.jp  
 http://greens.gr.jp

カンパ募集中  
 2013年 参議院選挙挑戦!

郵便口座 ゆうちょ銀行  
 口座番号: 00100-9-262967  
 口座名称: 緑の党  
 他金融機関からの振込の場合  
 口座種別: 当座預金  
 店名: 〇一九  
 (ゼロイチキューウ)  
 口座番号: 262967  
 \*ゆうちょ口座からゆうちょ口座へATMで振り込むと、手数料が無料になります (再来年まで)。